

空中写真からみた榛原側地域における過去50年間の崩壊地の変遷

Development of landslides in the last 50 years inferred from aerial photographs in the Haibara River area, central Japan

大丸 裕武 [1]; 黒川 潮 [1]

Hiromu Daimaru[1]; Ushio Kurokawa[1]

[1] 森林総研

[1] FFPRI

大井川上流部の榛原川流域において、過去50年間のオルソ空中写真を用いて崩壊地の推移について解析を行った。調査地域の地質は砂岩泥岩の互層からなる四万十層群からなり、北東-南西方向の走向、北西落ち(40~80度)の構造を有している。大規模な崩壊地の多くは受け盤側である南東向き斜面で発生しており、岩盤クリープの影響が示唆される。過去30年間にいくつかの深層崩壊が発生しているが、深層崩壊に先行して滑落崖に沿った、細長い表層崩壊が発生する例が認められた。

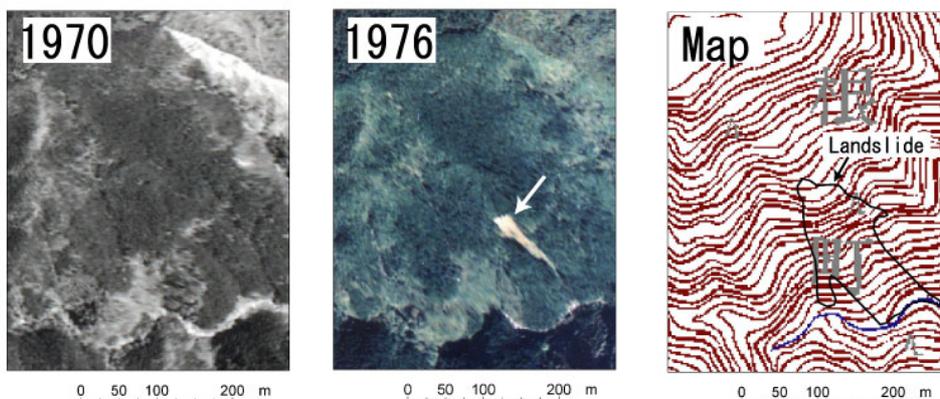


Fig. Ortho-photographs and a contour map showing a landslide occurred between 1985 and 1997. A preceding small landslide (white arrow) is recognized in the 1976 aerial photograph.